

社会福祉協議会支援金贈呈式

2015年9月10日に発生した関東・東北豪雨水害により多くの常総市民が罹災し、水海道ロータリークラブにおいても会員55名の過半数が被災する未曾有の大災害となりました。

あの悪夢の日から9か月が経過し、心配された復興への兆しも徐々に見え始めてきましたが、完全復旧までには、まだ遠く険しい道のりが予測されます。

さて、昨年9月の災害発生直後の常総市社会福祉協議会におかれましては、いち早く災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災された世帯にボランティアを派遣、調整を行っていただきました。

あの時、水が引いた後、流れ着いた泥やゴミなど目を覆うばかりの惨状を目の当たりにして、被災者誰もが戸惑うばかりで、私たち夫婦も途方に暮れて、呆然自失する他はありませんでした。

私も栄町の店舗は幸い被災を免れましたが、橋本町の八間堀川を背にした自宅は水没し、今月中には解体、更地にする工事が始まる予定です。

私たち夫婦も罹災後は避難所の水海道一高に身を寄せ、橋本町の水没した自宅の後片付けに通いました。ボランティアのお力を借り約1か月を要しました。

ボランティアの方々の献身的な活動が無ければ、復旧の一步を踏み出すことはできませんでした。

今日まで、約36,000名のボランティアにより、5,500件以上の支援活動をしていただいたと聞いております。

また、常総市に於いて、1日に3,000名を超えるボランティアを混乱もなく受け入れられたのは、日頃からの訓練はもとより、スタッフとして運営に協力された、全国の社会福祉協議会のネットワークや、運営ボランティアとの普段からの信頼関係があったことの賜物でありましょう。

泥やゴミ出しなどの後片付けが落ち着いた後、被災地域を一軒一軒回り、情報提供や困り事相談など、その時々状況に合わせた支援は、被災された地域が元気を取り戻すきっかけになりました。

現在、災害ボランティアセンターは地域支えあいセンターと名称を変え、活動を続けていらっしゃるご様子、心強く思うとともに、今後もきめ細かなサポートを続けてもらいたいと願っています。

このような常総市社会福祉協議会の活動の実績を伺いました上で、水海道ロータリークラブは、国際ロータリー第2820地区に国の内外から寄せられた義捐金の中から、常総市社協地域支えあいセンター運営費及び被災世帯生活支援相談業務費として310万円を贈呈いたします。被災者や地域の福祉向上のため、有効にお使いください。

2016年6月9日

国際ロータリー第2820地区 水海道ロータリークラブ 会長 海老原良夫

